

支援内容

本人支援	健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善：到着時の検温を実施し、日々の健康状態の把握に努める。歯科衛生士を招いた歯みがき指導など、利用者に健康を意識づけてもらえるような活動を実施。</p> <p>(b) 生活のリズムや生活習慣の形成：必要に合わせ定時での排泄誘導を実施。利用者の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p> <p>(c) 基本的な生活スキルの獲得：ADLや、生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、実際の場面での声掛けを実施。</p>		
	運動・感覚	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上：週1回『わくわくタイム』と称し、運動能力・体力向上を図る運動療育を実施。また、外部から指導者を招き、体操教室を実施(年1回)。</p> <p>(b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用：より良い姿勢での活動が行うことができるよう、理学療法士と相談し、各々に合わせた椅子や机のセッティング、また必要に応じて、傾斜天板やカットアウトテーブル、骨盤サポートクッション等を使用。</p> <p>(c) 保有する感覚の総合的な活用：感覚統合遊び(リトミック、縄跳び)や、傾斜のあるボルダリング等を提供する。</p>		
	認知・行動	<p>(a) 認知の発達と行動の習得：マッチング課題などの作業課題や、脳バランスサーキッズでのトレーニングを通して、認知機能の発達を促す。</p> <p>(b) 空間・時間、数等の概念形成の習得：ロジック課題を事業所内に用意し、数字に触れる機会を増やす。</p> <p>(c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得：SSTを取り入れ、自分に入って来る情報を適切に処理できるよう支援。環境の認知がスムーズに出来るよう視覚スケジュール、タイムタイマー等を利用。</p>		
	言語・コミュニケーション	<p>(a) 言語の形成と活用：絵本の読み聞かせ、なぞなぞ、言葉クイズ等を通じて、様々な言葉に触れ、語彙を知る機会を提供。</p> <p>(b) 言語の受容及び表出：言語的コミュニケーションに限らず、絵カード、ハンドサイン等を使用した非言語コミュニケーションも活用し、利用者自身の伝えたいことが適切に伝わる、かつ、他者の意図を適切にくみ取れるよう支援する。集団活動での振り返りでは、集団の前で発表する機会を提供。</p> <p>(c) コミュニケーションの基礎的能力の向上：読み書き能力を向上させるため、障害の特性に応じた支援を提供。</p> <p>(d) コミュニケーション手段の選択と活用：絵カード、ハンドサイン等を使用した非言語コミュニケーションも活用し、利用者の特性に応じたコミュニケーション手段を提案する。</p>		
	人間関係・社会性	<p>(a) 他者との関わり(人間関係)の形成：キーパーソンを作り、その信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。</p> <p>(b) 自己の理解と行動の調整：SSTを通して、適切な行動等を学ぶ機会を提供。また必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを行い、気持ちや情動の調整や自己理解を促す。様々な資格を持ったスタッフによって、様々な視点からの利用者理解に努める。</p> <p>(c) 仲間づくりと集団への参加：小集団、異年齢児との関わりを通し、ルールの理解や適切な振る舞いを学べるよう支援する。新入生歓迎会など、子どもたち主体での活動を用意し、協調性や仲間づくりを促す。</p>		
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助 ・親子会等により、同じ子を持つ親同士の交流を図る。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先や移行先への相談援助や情報提供 ・併用利用先や学校・保育園との情報共有や支援のすり合わせ 	
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園、保育園、幼稚園、学校、併用事業所との情報連携や調整、支援方法についての情報共有、相談援助 ・相談支援事業所との連携 ・医療機関との情報連携や調整 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・SST ・強度行動障害 	
主な行事等	親子会(年に1~3回)、夏祭り、クリスマス会、ハロウィンパーティー、その他四季に合わせた行事・活動を実施。			